令和８年度

「運営に関する計画」

（中間評価）

大阪市立　橘小学校

令和８年１０月

（様式例２）

大阪市立橘小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。（R8:94%） ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R8:89%） ○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。（R8「自分」:93%／「人」:98%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【１　安全・安心な教育環境の実現】 ○みんなで楽しく学校生活を送るために、学校のきまりを理解し、守ることができるよう、計画的に取り組む。そして、ふり返る機会を設ける。 ○いじめを許さない心を育てるために、児童会や各委員会により「いじめ（いのち）について考える日」等の集会活動に取り組む。 --- 指標 ○各学級に「学校のきまり」を掲示し、学期ごとに振り返りや確認を行う。 ○「生活ふりかえりカード」の取り組みを年間３回行う。 ○いじめに関する代表委員会を中心とした集会活動に年１回以上、委員会活動による発表集会を年１回以上取り組む。 ○外部関係機関とも連携しながら、外部講師による授業や学習の機会を学校全体として、年間３回以上設ける。	B
取組内容②【２　豊かな心の育成】 ○すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にする」ことを意識し、子どもの自尊感情を高め、認め合える関係を築く。 --- 指標 ○校内の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の児童の肯定的な回答の割合を 85%以上にする。（R8:89%） ○校内の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の児童の肯定的な回答の割合を 95%以上にする。（R8「自分」:93%／「人」:98%） ○児童どうしの「仲間づくり」につながる活動を、学級・学年内及び異学年間にお	B

いて各学期１回以上、取り組む。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① ６月に「生活がんばり週間」を実施し、きまりを守る意識を高めることができた。「生活がんばりカード」で振り返りを行うとともに、代表委員会を中心として啓発活動を行った。期間中は意欲的に取り組めている児童も、期間が終わると継続して意識ができていないという課題が見られた。
「いじめ（いのち）について考える日」の集会を通して日頃から、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める指導を継続している。また、集会委員会だけでなく、各委員会でいじめに関わる集会への取組を進めている。
② 校内の児童アンケート「自分には、よいところがあると思う」の項目について、肯定的な回答が 89%となり、目標を上回っている。また、「自分も人も大切にしている」の項目においては、肯定的な回答の割合が「自分」: 93%、「人」98%となった。課題であった「自分」への肯定感が２ポイント上昇したが、目標の 95%には至っていない。
　また、児童の現状としては、言葉や暴力で友だちを傷つける場面は依然散見され、結果どおりの実態とは言えない。人権教育研修や学年間の情報共有でピアサポートやいいところみつけ等、なかまづくりの具体的な取組について学びあい、それを積極的に実践することで、児童が互いに認め合える土台づくりが進んでいる。また、児童の実態や起こった事象に応じて関係する教職員で集まり、情報の共有や方針の検討を行うことを重視している。たてわり班活動や「たてわり班あそび」で、高学年がすすんで新しい企画を考えて、低学年と盛んに交流を行っている。

今後の改善点

① 日々の学級活動、児童会や委員会による集会活動等で児童のがんばりを認める取組を進める。学校全体の取組期間も大切にしつつ、普段からいじめを見逃さない姿勢を引き続きとっていく。さらに教室内の整理整頓を行い、いじめを起こさせない環境整備を図る。（いじめの未然防止）また、各委員会による「いじめ防止」に関わる啓発活動の活発化を図る。
② 人権教育部会を中心に各学年の実状の共有化を図るとともに、それに応じた「なかまづくり」につながる取組を今後も引き続き実践する。また、ニーズに合った研修内容の校内研修を行い、児童が互いに認め合える集団づくりを推進する。
　児童への肯定的な声かけ、カードやシール等具体物による成果の視覚化など、日々の学習活動の中で児童が友だちや自分自身を肯定的にとらえることができるようにしていく。

（様式例２）

大阪市立橘小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。（R8：85%） ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。（R8：88%） ○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。（R8：90%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【４　誰一人取り残さない学力の向上】 ○毎日の授業や教育活動で、児童どうしが意見を交流する機会を設定し、自分の考えを深め、新たな考え方に気づいたりすることができるように指導・支援を行う。(ペア学習、グループ学習など) ○授業のまとめにおいて、「ふり返り」を行い、次の授業に活かす。 ○児童一人一人の学力や実態に応じたデジタルドリル(navima 等)のさらなる活用を図り、個別学習の充実を図る。	B
指標 ○校内の児童アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の児童の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。（R8：85%） ○校内の児童アンケートで「家庭学習で学習者用端末を週２回以上使用している」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 65%以上にする。（R8:47%） ○校内の児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の児童の最も肯定的な回答の割合を 60%以上にする。（R8：58%）	
取組内容②【５　健やかな体の育成】 ○体育の授業や体育的行事や取組等で、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わえるように工夫を図る。	B
指標 ○校内の児童アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の児童の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。（R8：88%）	

取組内容③【５　健やかな体の育成】 ○バランスの良い食事を心がけて、好き嫌いなく食べようとする意識を高めるように各学級での給食指導や栄養指導を充実する。 指標 ○「健康生活がんばりカード」において「(給食を) 自分で決めた量を残さず食べている」の児童の肯定的な回答の割合を 91%以上にする。 (R8:全部 83%/3 回 9%/2 回 4%/1 回 2%/0 回 2%) ○栄養教諭による栄養指導を各学級２回／年以上行う。 ○「給食週間」中に給食委員会を中心に ICT を活用した発表を行う。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①
・校内アンケートにおいて、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の児童の肯定的な回答の割合は８５％で、目標より５％上回った。各学年でペアトーク、グループトーク等話し合う機会を設けているため、数多くある活動の中で考えを深め、広げることができていると考えられる。
・校内の児童アンケートで「家庭学習で学習者用端末を週 2 回以上使用している」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は４７％と目標より大幅に下回っている。各学年において、いつどのように活用しているのか、また行っているかについて共通理解が図れていない。また、低学年では、基本の操作がやっとなので家庭学習で活用していくのはこれからになる。
・校内の児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の児童の最も肯定的な回答の割合を 60%で達成基準をほぼ満たしている。学年打ち合わせの時間を活用し、学年の学習の方向性を確かめ、授業内容の確認ができていると考えられる。

②
・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の児童の肯定的な割合が８８％であり、目標の８０％を上回った。体育の授業の準備運動で柔軟体操を取り入れたり、体育的行事において体を動かす楽しさや心地よさを味わえたりするような工夫を図っている。また、休み時間には教員も児童とともに運動場で遊ぶなど、日常的に運動に親しむ環境づくりを進めることができた。
・栄養教諭による栄養指導を各学級で実施するとともに、日々の給食指導において、バランスの良い食事や好き嫌いなく食べることの大切さについて継続的に指導を行い、食への関心を高める取組を行った。一方、「健康生活がんばりカード」における「給食を自分で決めた量を残さず食べている」の項目において、肯定的な回答は８３％であり、目標の９１％には達していない。

今後の改善点

①　・今後も現在行っている取組を継続していく。
　　・学年ごとに「いつ、どのように取り組むか」を決めて研究部会で共有していく。
　　・今後も学年打ち合わせをうまく活用していく。
②　・今後は１１月の「なわとび週間」等の取組を通して、さらなる運動習慣の定着と体力向上を図っていく。また、「暑さ指数」を踏まえながら、屋内外の活動を効果的に組み

合わせ、児童が継続して運動に親しむ機会の確保に努める。

・「健康生活がんばりカード」の結果を広く児童たちへ共有し、自分自身の食習慣を振り返る機会をより充実させる。また、児童一人一人に応じた給食指導を継続し、自分が決めた量を食べ切ろうとする意識の向上を図る。

（様式例２）

大阪市立橘小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 65%以上にする。（R8：88%） ○「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。（R8　６月:0%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【６　教育ＤＸの推進】 ・毎日の授業や諸活動において、プログラミング学習をはじめ、デジタル教材の活用、調べ学習、まとめ（発表）等の学習活動において学習者用端末を活用する。併せて、個人学習（デジタルドリル等）を週１回以上実施する。 ・各学年の児童の実態に応じて年間指導計画に位置づけ、プログラミング学習に年に１回以上取り組む。 ・情報モラル教育を各学年において、年間１回以上実施する。	B
指標 ・校内の児童アンケートで「学校活動の中で学習者用端末を週３回以上使用している」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。（R8:88%）	
取組内容②【７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現を目指す。	B
指標 ・先進的な取組や教職員の必要性に応じて全体研修、メンター研修を実施する。 （年間全体研修９回、メンター研修５回） ・会議内容の精選や焦点化を図ったり、会議の終了時刻を明示したりすることで、各自が計画的に進めることができるようにする。 ・学年集団による学年打ち合わせを週に１回設け、機能化を図る。 ・「ゆとりの日」を月１回以上設定し、退勤時刻を 17 時 30 分にする。学校閉庁日については、夏季休業日期間中は４日以上、冬季休業日期間中は３日以上を継続する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①

・校内の児童アンケートで「学校活動の中で学習者用端末を週３回以上使用している」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 88%と達成基準を満たしている。「心の天気」、NAVIMA だけでなく、スクラッチや CANVA などのアプリを活用する学年もあり、日々の授業で学習者用端末を使うことが日常的になってきている。

しかし、日々、学習者用端末のアプリや児童の興味関心も進化している。また、低学年が学習者用端末の有効な活用が十分にできているかは分からない状況にある。

②

・様々な研修を計画通り実施している。特に、メンター研修は既に３回実施している。（２回予定)研修内容も教材研究や学級経営など工夫を図り、効果的な研修を行うことができている。

・スクールサポートスタッフを有効に活用し、児童一人一人を見守ることができている。

・「ゆとりの日」（月に１回)、学校閉庁日を夏季休業中には、４日間は計画通り実施している（冬季休業期間は３日間予定)。退勤時刻は全体的に早くなってきているが、「ゆとりの日」における 17 時 30 分での退勤は難しいときがある。

・学年打ち合わせにおいて、学年内の情報共有や意思確認がスムーズに行えるようになってきている。しかし、学年間の連携が難しいことがある。

今後の改善点

① 校内研修会や各研修、資料の回覧等で情報を集め、共有する機会を設けていく必要がある。

②

・引き続き、会議の精選を行い効率のよい働き方を目指す。

・今後も計画通りに各研修会を進めていく。

・職員室の本日の予定に書かれている各会議の終了時刻も明示する。

・今後、サポーターとのミーティングの機会を設ける工夫を図る。

・「ゆとりの日」における 17 時 30 分退勤の周知を図り、計画的に業務を行えるようにする。

・教職員間の連絡、連携をさらに図る。